



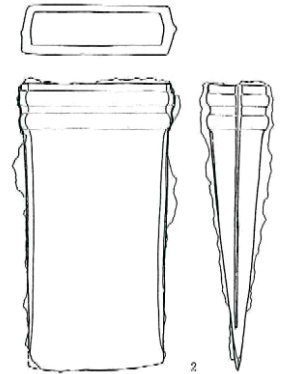
『海を渡った鑄鉄の斧』

ヨーロッパ（ドイツ）では14世紀になって発明された鑄鉄ですが、中国では紀元前にすでに立派な鑄造技術が確立していました。商の時代（BC1700～1028年）中ごろに出土した鉄刃銅鉞（てつじんどうえつ）は最古の使用例として有名ですが、これは隕鉄（いんてつ）です。人工の鉄の使用例は西周時代（BC1100～770年）に始まります。前漢の時代には製鉄所と鉄工所は官営となり鉄官と呼ばれ、全国各地に鉄製農具を浸透させてゆきました。

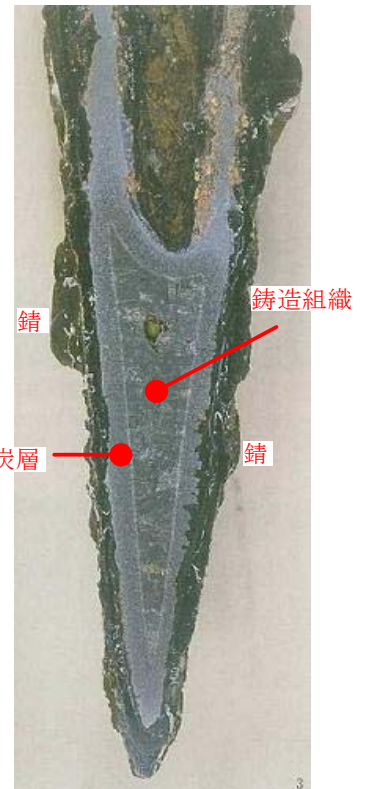
右の写真は福岡県比恵遺跡（弥生時代中期：1～3世紀）から出土した鑄鉄製の斧です。この斧は、2本の突帯が中国の戦国時代の鑄鉄鉄斧の特徴を表しています。大澤正己氏の研究で鉄の鑄型を使用して作られたことが判明しました。これは、朝鮮半島からもたらされたものです。

鑄鉄は炭素量が高く折れやすいものですが、この斧は表面近くに均質な脱炭層を持ち柔らかくして、折れにくく加工されています。この均質は当時の加工技術が非常に優れ、熱処理技術も確立していることを示しています。

また、鑄鉄鉄斧の欠けたり壊れた破片は、磨製の石斧を作る工程と同様の方法で研磨され、板状鉄斧・鑿（のみ）・やりがんな・切り出しナイフなどとして再利用され、福岡県（比恵、庄原）・熊本県（神水）や佐賀県（吉野ヶ里）の遺跡から何種類もの加工品が出土しています。



巾8cm x 高さ15cm x 厚み2.6cm



縦断面の状態

およそ2000年ぶりに銀色の輝きを現した中国製の鑄造鉄斧。良好に遺存するメタル部分の外側には高度な脱炭処理の痕跡が肉眼で観察できる。ただし、倭人はまだその技術の高さや効果的な使用法など知る由もなかった。
（協力：福岡市埋蔵文化財センター）

参考資料

日本古代文化の探求 鉄 森 浩一 編 社会思想社 1979年
倭人と鉄の考古学 村上 恭通 青木書店 1999年

ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>
<http://www.kanamonoya.co.jp/ryou@memenet.or.jp>

むらの鍛冶屋®



何でもお気軽にお尋ねください！！